

こくぶ みゆき
特別審査員賞 國分 美幸

お母さんへ

あなたがいなくなってから、1年8カ月が経ちました。

この時間は、あなたが病気と闘った時間と同じ長さです。

あなたの病気が分かった日、私は大阪に住んでいて、念願の東京への就職内定に手が届きそうな時でした。私は泣きながら「福岡、帰るよ。東京は逃げないし、それに私の夢は東京じゃなくても……。」一度は、諦めかけた東京。

あなたは「何年かかってもいいから、東京で仕事をして、日本の中心を見ておいで。厳しい環境の中で、生きてみなさい。そして、東京で夢を叶えなさい。」と、私を励まし続けました。泣きじゃくる私を慰める事もなく、

「せっかくのチャンスを棒に振るなんて、ダメ。お母さんも病気から逃げないから、みーちゃんも逃げたらダメ。」と淀みの無い声で言いました。

私は、今、東京に居ます。

昔から友だちが少なく、好きな本と映画と音楽を語り合い、私の広がる夢を聞いてくれたのは、あなただけでした。母親であり、大切な友人でした。あなたさえいれば、1人でも寂しくはなかったのに……。

あなたは決して、さよならを言いませんでした。

東京にいる私は、あなたに最後のさよならも言えずに生きています。

寂しいよ、お母さん。会いたいよ、お母さん。

でも、会ったら今度こそ「さよなら」を言わなきゃいけない。今はまだ言いたくないな……。だから叶った夢を土産に、私から会いに行くよ。

でもね、ふと思うの。あと、どれくらいの時間を1人で闘えばいいの？

(東京都/32歳/女性/保育士)

生前の母との約束がはたせず、日々の仕事に追われ、心の拠り所もなく、苦しい思いをなんとか消化し、一步でも前進したい気持ちを書きました。